

2011年(平成23年)10月15日(土曜日)

会員再会喜びプレー

郡山で大会 相双バドミントン協



久しぶりの試合に汗を流す参加者

と、県バドミントン協会などの支援で同大会の開催が決まった。

相双バドミントン協会(川崎豊会長)は10日、郡山市で東日本大震災復興祈念・相双バドミントン大会を開き、会員の愛好者らが再会を喜びながら、久しぶりのプレーに汗を流した。大震災や原発事故の影響で会員の多くが県内外の各地に避難、地区内の体育館などは使用できない状態で、同協会の活動は事実上、休止していた。そんな中、「道具もないゼロの状態でも、何とかしてみよう」。川崎会長や役員呼び掛け

「10人ほどしか集まらないかもしれない」との川崎会長の心配とは裏腹に、当日は県内外の避難先などから約80人が参加。思う存分に体を動かし、試合を楽しんだ。避難先の千葉県から参加した南相馬市の会社員木幡貴文さん(37)は「試合結果ではなく、みんなにまた会えたことが何よりうれしい」と笑顔。川崎会長は「みんなと一緒にバドミントンで汗をかくことができ、とても楽しい。大会を實現できたこの力は、将来の復興の力につながっていくはず」と話した。